

問 農業、農地こそ市の最大の課題では

篠津北、白岡中周辺、大山、菁莪、すべて農地農業が、そして後継者がいないことが問題になっている。一体誰がこの課題に立ち向かっているのか。民間デベロッパへの対応にも民間と民間の問題ではなく積極的に介入する考えは。

答 優良農地の保全に努めていく

農業後継者不足による耕作放棄地の増加は深刻さを増している状況である。市としては、農業委員や農地利用最適化推進委員をはじめ、農地中間管理機構など関係機関と連携しながら、農業振興のため優良農地の保全に努めていく。



遠藤 誠 議員
(無所属)



白岡駅自由通路

問 JR2駅のにぎわいづくりを

JR2駅は久喜駅、蓮田駅と違って通路が市の所有であり、維持管理を市が行っている。その経緯と費用は。駅は通勤通学の家路への入口であり綺麗で心地よいものに。また、市の所有ならば他の駅と違う活用ができるのではないかと。

答 駅自由通路の積極的な活用を推進する

自由通路の所有権は、建設当時の日本国有鉄道との契約で市となっている。年間の維持管理費用は、29年度決算見込額で約1,220万円を要している。通行に支障がない範囲で、公益性のある使用については、積極的な活用を推進する。

問 いつもの街で、素敵な発見のために

白中周辺土地利用事業の優先度はA、新白岡駅周辺の住環境整備はB。ロータリー中央部の活用や自由通路エスカレーター化などの整備を進めるべき。また、コミュニティサイクル事業などで、周辺の塩漬け市有地を活かし、いつもの街で素敵な発見を感じる事業を。

答 事業の必要性について研究していく

新白岡駅周辺の整備は、重要な事業と認識している。市全体の状況を踏まえて事業化していく。コミュニティサイクル事業は、先進自治体の取組について情報収集に努めるとともに、利用者の需要を見極めながら、必要性を研究していく。



黒須大一郎 議員
(隼人)



問 また一つ、駅前空き店舗が

市特産品やキャラクターを取り扱う特産館が、9月に閉館する。今後特産館は、どうなるのか。魅力の発掘、創造とその発信であるシティープロモーション戦略で大丈夫なのか。地域活性化を目指す中小小売商業高度化事業(TMO)構想は、時代にあっているのか。

答 新たな商業振興策を考えていく

特産館は、商工会などの意見を聴取し、新たな商工観光施設としての活用を検討する。市では、新たな特産品の掘り起こしや開発、頑張る事業者などについて引き続きPRしていく。商業振興構想は、市全体を捉えた新たな施策を改めて考えていく。